

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感		整理番号	33
基本施策	11	学校教育の充実	評 価 責 任 者	教育振興課長 中村 文隆	
単位施策	1	小中学校の教育内容の充実			

1 施策の概要

基本方針	児童生徒一人ひとりに配慮しながら個性を活かす教育を推進し、基礎・基本を定着させ、自ら学ぶ意欲を引き出す授業を充実させるとともに、特別な支援を必要とする児童生徒に対し、きめ細かな教育・支援を推進します。また、自然体験や職業体験、国際理解教育、情報教育、食育など、地域に根ざした特色のある学習を推進します。					
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）			【現状】（令和元年度末）		
	本町の教育目標である「雄武の未来を拓く、活力あふれる心豊かな人を育て」を達成に向け、児童生徒の個性を尊重し「生きる力」を育てため、教職員の指導力の向上と指導用教材の整備や特別支援教育支援員・外国語指導助手の配置など授業支援を推進している。			各小中学校で特色を生かした教育活動を実践しているほか、特別支援教育支援員及び外国語指導助手の増員を図り、児童生徒へのきめ細かい指導に努めている。また、新学習指導要領の実施に向けた準備が進んでいる。		
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）			【課題】（令和元年度末）		
	ふるさと教員、特別支援教育支援員及び外国語指導助手が不足している。令和2年度からのプログラミング教育の導入などICT環境の整備充実が必要となっている。			新学習指導要領の実施により、児童生徒の主体的、協働的深い学びが求められるとともに、プログラミング教育や新たにGIGAスクール構想による児童生徒1人1台パソコン整備など学校におけるICTの更なる活用が求められている。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	全国学力・学習状況調査						
	定義等	「将来の夢や目標を持っている」と回答した小学6年生の割合						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	71.9%（全道68.9%）	80.6%（84%）	82.8%（82%）				85.0%
指標2	指標名	全国学力・学習状況調査						
	定義等	「将来の夢や目標を持っている」と回答した中学3年生の割合						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	35.1%（全道45.3%）	62%（71.3%）	45.7%（70.6%）				70.0%
指標3	指標名	全国学力・学習状況調査						
	定義等	「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」小学6年生の割合						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	53.2%（全道54.6%）	44.5%（57.1%）	83.3%（57.6%）				65.0%
指標4	指標名	全国学力・学習状況調査						
	定義等	「学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」中学3年生の割合						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	56.7%（全道63.0%）	41.4%（64.7%）	49.9%（63.2%）				65.0%
指標5	指標名	特別支援教育支援員						
	定義等	特別支援教育支援員の人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	3人	4人	4人				4人
指標6	指標名	外国語指導助手（ALT）						
	定義等	外国語指導助手（ALT）の人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	1人	2人	2人				2人
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	言語治療児童援助事業	教育総務係	188	A	継続/現状維持	A
②	語学指導を行う外国青年招致事業	教育総務係	9,073	A	継続/現状維持	A
③	小中学校教師用指導書購入事業	教育総務係	6,491	A	継続/現状維持	A
④	雄武町特別支援教育推進事業	教育総務係	16,330	A	継続/現状維持	A
⑤	ふるさと教員配置事業	教育総務係	0	C	継続/内容の見直し・変更	E
⑥	要保護・準要保護児童生徒援助事業	教育総務係	3,093	A	継続/現状維持	A
⑦	児童生徒授業用コンピューター整備(更新)事業	教育総務係	24	A	継続/拡充	A
⑧	社会科副読本作製事業	教育総務係	0	A	継続/現状維持	A
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	小中学校における教育内容の充実については、国の教育施策等の動向を見据えながら、義務教育を推進する上で必要不可欠な施策である。
② 有効性	A	少人数・習熟度別学習や放課後の補充学習など、児童生徒の基礎・基本を定着させる授業と自ら学ぶ意欲を引き出す授業の充実のほか、ICT環境の整備により有効な施策の推進を図った。
③ 効率性	A	各関連事業の実施にあたっては、最小の経費で最大の効果が得られるよう、財源の配分及び関係事業執行の工夫により、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	義務教育の対象となる児童生徒の全員に受益が及びることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	小中学校の教育内容の充実については、学校評議員の配置及びPTAとの連携により、町民意見の反映を図っている。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
 B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
 C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
 D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
 (2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
学校教育の充実を図るため、関係事業を拡充し効果的に進めたことにより、児童生徒へのきめ細かい指導に努められ、子供たちの生きる力の育成及び学習意欲の向上がおおむね図られていると判断するが、実施できていない事業もあるため、工夫しながら引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
小中学校の教育については、引き続き関係事業を推進し教育内容の一層の充実に向けていく必要があり、児童生徒の「生きる力」を育むため、主体的、対話的で深い学びにつながる施策の実施、保育所・小中学校・高等学校間の情報共有や連携を図ることが重要である。	同 左	

*今後の方向性の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	34
基本施策	11	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実		

1 施策の概要

基本方針	授業改善の取り組みなどにより、教職員等の資質と指導力を向上させるとともに、教育施設・設備の計画的な整備・改修や、地域ぐるみの学校安全対策を推進します。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）

2 基本施策指標

指標1	指標名	教育相談員						
	定義等	教育相談員の人数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	0人	1人	1人				1人
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	山村留学推進事業	教育総務係	500	A	継続/現状維持	A
②	教育施設等管理委託業務	教育総務係	31,900	A	継続/現状維持	A
③	小中学校教育備品整備事業	教育総務係	7,082	A	継続/現状維持	A
④	生徒教育振興事業	教育総務係	1,702	A	継続/現状維持	A
⑤	学校図書整備事業	教育総務係	1,348	A	継続/現状維持	A
⑥	雄武町学校教育振興推進協議会補助事業	教育総務係	994	A	継続/現状維持	A
⑦	教職員教育振興事業	教育総務係	298	A	継続/現状維持	A
⑧	教育相談員配置事業	教育総務係	4,393	A	継続/現状維持	A
⑨	学校環境整備事業	教育総務係	19,546	A	継続/現状維持	A
⑩	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	教育総務係	325	B	継続/内容の見直し・変更	A
⑪	教職員用パソコン導入(更新)事業	教育総務係	851	A	継続/現状維持	A
⑫	へき地小学校巡回事務職員配置事業	教育総務係	2,431	A	継続/現状維持	A
⑬	教育施設長寿命化計画策定事業	教育総務係	7,480	A	終了	A
⑭	沢木小学校開校120周年記念事業	教育総務係	250	A	終了	A
⑮	学校給食調理業務委託事業	学校給食係	15,774	A	継続/現状維持	A
⑯	学校給食食育推進事業	学校給食係	99	A	継続/現状維持	A
⑰	学校給食センター設備等更新事業	学校給食係	1,106	A	継続/現状維持	A

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	小中学校の教育環境の充実については、教職員の資質及び指導力向上のほか、教育の拠点施設である学校施設及び学校給食センターに係る施設環境の向上を図ることは重要な施策である。
② 有効性	A	小中学校等の施設環境及び教育備品等の整備を計画的に進め、安全安心な教育環境が整備され、有効な施策の推進を図った。
③ 効率性	A	小中学校等の整備に当たり、国の交付金をはじめ財源の確保やふるさと応援寄付金を有効に活用し、計画的かつ効率的に施策の推進を図った。
④ 公平性	A	義務教育の対象となるすべての児童・生徒に受益が及びることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	小中学校の教育環境の充実については、学校評議員の配置及び学校給食センター運営委員会の開催等により、町民意見の反映を行っている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
教職員の資質と指導力向上、小中学校の教育環境の充実、整備を計画的に進めているが、小中学校等の教育施設については、老朽化が著しく長期的な視野のもとに改修整備が必要となっている。	同 左	

今後の方向性

継続/拡充	継続/拡充	
教職員の資質と指導力向上については、現行施策の継続と合わせて学校の働き方改革を推進する。小中学校等の施設環境については、長寿命化計画に基づく整備により機能向上と施設延命化に配慮した事業実施が必要である。	同 左	

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感		整理番号	35
基本施策	11	学校教育の充実	評 価 責 任 者	教育振興課長 中村 文隆	
単位施策	3	開かれた学校づくりの推進			

1 施策の概要

基本方針	いじめや不登校などに迅速・的確に対応するため、学校、家庭、地域の緊密な連携のもと、きめ細かな相談・指導を構築し、開かれた学校づくりを推進します。また、学校・家庭・地域が連携した「地域とともにある学校づくり」を推進します。					
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）			【現状】（令和元年度末）		
	学校が保護者や地域から信頼され、期待に応える教育を実現するために、学校評議員制度や授業参観や学校行事を積極的に公開するとともに、ホームページや学校だよりを通して情報の発信に努め「外から見える学校づくり」を推進している。			各学校の情報発信による「外から見える学校づくり」が実践されており、また、保護者、地域住民による学校支援の取り組みも定着し、地域全体で子供たちを守り育てる体制が推進されている。		
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）			【課題】（令和元年度末）		
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、地域が学校運営に参画する制度として、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置が努力義務化された。			令和2年度から学校運営協議会を設置することとしているが、有益に機能させるための今後の取り組みが課題となっている。		

2 基本施策指標

指標 1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標 7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)導入調査研究事業	教育総務係	24	B	終了	A
②	【再掲】学校支援活動推進事業	生涯教育係	138	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	開かれた学校づくりの推進については、関係法令の要請もある中、学校に対する地域住民の参画推進を図る上で重要な施策である。
② 有効性	B	学校評議員の配置、各校下における活発なPTA活動及び学校支援活動推進事業等により、おおむね有効に施策の推進を図っている。
③ 効率性	A	開かれた学校づくりの推進のため、地域住民によるボランティアでの活動が実施されており、効率的な施策の推進を図った。
④ 公平性	A	本施策において、町民誰もがボランティアによる学校支援に参画することができるとともに、小中学校施設の学校開放利用の地域住民との情報共有も図られることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	開かれた学校づくりの推進については、学校評議員やPTA等の意見が反映されている。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
開かれた学校づくりの推進を図るため、関係事業の効果的な実施及び必要な支援を進めてきたところであるが、学校ホームページの活用など情報発信については、更に充実を努める必要がある。今後はさらに地域とともにある学校づくりへコミュニティ・スクールの設置が求められる。	同 左	

今後の方向性



継続/拡充	継続/拡充	
学校からの情報発信の充実を努めるとともに、学校・家庭・地域が連携し、特色ある学校づくりや地域に開かれた学校づくりを推進していくため、地域住民が学校運営に参画する仕組みとしてコミュニティ・スクールを設置し、より一層取組を充実させる必要がある。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	36
基本施策	11	学校教育の充実	評価 責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	4	魅力ある高校づくりに向けた支援の強化		

1 施策の概要

基本方針	雄武高校については、通学費等や部活動への補助、資格取得受験、見学旅行に係る助成を引き続き実施するとともに、魅力ある学校づくりのための支援を強化し、地域に必要な高等学校としての機能を高めます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	少子化に伴い雄武高校へ進学する生徒が減少しており、公立高等学校配置計画により平成30年度から地域連携特別校に指定され、普通科1学級の配置が決定している。	雄武高校の地域と連携した取組や、小規模校ならではの生徒個々の進路希望に対応したきめ細かい指導のほか、生徒・保護者に対する町の支援の強化により、地元中学からの進学率も向上傾向にある。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	魅力ある学校づくりによる地元中学校からの進学率の向上を図るなど、雄武高校存続に向けた取り組みを強化する必要がある。	地元中学からの進学率については、卒業年によって安定していないことから、雄武高校の更なる魅力ある学校づくりを推進するため、町の支援をはじめ、小中高の連携や地域と一体となった取り組みを強化させる必要がある。

2 基本施策指標

指標1	指標名	雄武中学校から雄武高等学校への進学						
	定義等	雄武中学校から雄武高等学校への進学率						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							65.00%
	実績値	61.50%	83.33%	67.65%				
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	雄武高等学校存続対策事業	教育総務係	109,454	A	継続/拡充	A
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	雄武高校は、町内唯一の後期中等教育機関であることから存続させる意義が高く、そのためにも入学者の減少の抑制や魅力ある学校づくりを推進することが重要であることから、引き続き行政の支援が必要である。
② 有効性	A	存続対策事業における各種支援対策については、概ね計画どおり進捗しており、入学率の向上に一定の効果があると思慮される。
③ 効率性	B	存続対策事業における各種支援対策については、高校と連携して取り組んでおり概ね効果的と判断される。
④ 公平性	A	地元の高校を存続させることは、まちづくりや町の活性化にも寄与すると判断されることから、公平性は確保されるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	A	雄武高校において平成30年度から雄武高校輝きプロジェクトを組織し、高校・PTA・行政・教育委員会・町内関係団体により、魅力ある高校づくりを推進する取り組みを進めている。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
 B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
 C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
 D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
 (2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
各種支援制度により地元中学校からの進学率は一定程度維持されており、生徒の家庭に対する経済的な支援は充実していると判断されるが、今後、少子化による児童数の減少が見込まれることから、高校に進学する学生に選ばれる魅力ある施策を充実させる必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/拡充	継続/拡充	
雄武高校を存続させることは、子育て支援のみならず町づくり・人づくりの観点からも重要であり、なくすることはできない学校であることから更に魅力ある学校づくりのため、高校と連携し進学希望者のニーズを踏まえた支援拡充と小中高のより一層の連携に取り組んでいく。	同 左	

*今後の方向性の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	37
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価 責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	1	生涯学習活動の推進		

1 施策の概要

基本方針	町民一人ひとりが、それぞれの年代やライフスタイルに応じて、学習活動を楽しみ、個人の生活や仕事だけでなく、まちづくりにも生かされるよう、地域課題に対応した学習機会の提供や自主グループの活性化を図るとともに、指導者の育成に努めます。また、各施設・設備の適切な運営管理と改修等を推進します。青少年教育・健全育成については、家庭、学校、地域が役割分担しながら、自然や産業などの関わり合いを通して、子どもたちが健やかに成長していけるよう、各種取り組みを推進していきます。			
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）		
	町民のライフスタイルが変化中、町民の各世代層に適した学習機会の提供や文化連盟・サークル等の自主活動の支援を図っている。	「学び」や「生きがい」につながる学習機会については、各種講座や講演会等を開催し、町民の学習意欲の向上を図っている。		
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）		
	各種学習機会に町民ニーズを把握し、様々な分野の学習課題の提供方法を工夫し、町民の満足度を上げる必要がある。	情報技術の進展に伴い、学習意欲の変化とニーズが多様化していることから、引き続き、各種学習機会に町民ニーズを把握し、様々な分野の学習課題の提供方法を工夫し、町民の満足度を上げる必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	町主催学習講座の参加率						
	定義等	町民大学等への住民の参加率（まちづくりアンケート）						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							25.0%
	実績値	22.1%						
指標2	指標名	青少年健全育成活動の年間実施回数（民間・行政）						
	定義等	青少年の健全育成を目的とした活動回数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							6回
	実績値	6回	5回	6回				
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	生涯学習推進事業	生涯教育係	220	B	継続/現状維持	A
②	武雄市児童交流事業	生涯教育係	2,223	B	継続/現状維持	B
③	家庭教育推進事業	生涯教育係	54	B	継続/現状維持	A
④	社会教育関係団体活動費補助事業	生涯教育係	650	A	継続/現状維持	A
⑤	雄武町子ども育成会50周年記念事業	生涯教育係	80	A	終了	B
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町民の「学び」に対する意識や意欲を高めるためには、重要な施策である。
② 有効性	B	講座などの参加者にアンケートを実施しており、満足度は高い結果となっている。今後は、さらに多くの町民が参加できるよう学びやすい環境を整える必要がある。
③ 効率性	A	社会教育委員や各学校、子ども育成会などの社会教育関係団体・サークルと連携・協働を図り、各役割により効率的な推進が図られた。
④ 公平性	A	各世代層に学習機会を提供しており、事業に応じて適切な受益者負担を求めていることから、公平性は保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	社会教育委員等の意見を聞きながら推進している。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
- B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
- C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
- D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
人口減少、少子高齢化に伴い、参加者が減少している事業があるものの、政策目標の達成には効果的に事業が推進されていると判断される。今後は、参加しやすい環境の整備などに配慮しながら、引き続き事業を推進することが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
政策目標を達成するためには、施策の継続が重要であり、各関係機関と連携を図り、人口減少やライフスタイルの変化に順応した事業を取り入れながら引き続き推進していく。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感		整理番号	38
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評 価 責 任 者	教育振興課長 中村 文隆	
単位施策	2	生涯スポーツ活動の推進			

1 施策の概要

基本方針	町民が幅広いスポーツ活動に参加・継続できるよう、初心者にも気軽に参加できるイベントや大会の開催、各種スポーツ教室の充実などに努めるとともに、各種自主グループの積極的な活動展開を促進します。また、各施設・設備の適切な運営管理と改修等を推進します。さらに、子どもたちがトップアスリートにふれる機会づくりに努めるほか、全道・全国大会への参加経費の一部助成、スポーツ合宿との連携などにより競技スポーツの振興を図ります。					
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）			【現状】（令和元年度末）		
	各種スポーツ活動の充実を図るため、イベントや教室などを開催し、町民の健康増進を図るとともに、体育連盟などの活動支援を図っている。			町民が広くスポーツ活動に参加できるよう、スポーツ大会の開催やスポーツ教室等を実施するとともに、スポーツ団体への活動費補助などを行っている。また、全道・全国大会への参加経費の一部助成やスポーツイベントへの参加経費の一部助成を行っている。		
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）			【課題】（令和元年度末）		
	町民が気軽にスポーツに親しむことができる各種事業の開催を通じて、学びやスポーツを楽しむまちづくりを進めることが重要である。			少子高齢化により、年々競技者が減少するとともに、指導者も減少していることから、既存の団体活動が継続できるよう支援しつつ、指導者を育成していく必要がある。また、多くの町民が参加でき、長く続けられるスポーツ事業を展開していく必要がある。		

2 基本施策指標

指標1	指標名	週1回以上、1年以上継続してスポーツ活動を行う町民の割合						
	定義等	住民のスポーツ活動の参加割合（まちづくりアンケート）						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							20.0%
	実績値	15.8%						
指標2	指標名	町主催スポーツ講座の参加率						
	定義等	スポーツ講座の住民参加率（まちづくりアンケート）						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							25.0%
	実績値	23.5%						
指標3	指標名	スポーツ少年団員数の割合						
	定義等	スポーツ少年団の加入割合						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							20.0%
	実績値	14.7%	11.3%	7.0%				
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	社会体育団体活動費助成事業	生涯教育係	540	A	継続/現状維持	A
②	雄武町スポーツ振興事業	生涯教育係	710	A	継続/現状維持	A
③	スポーツイベント参加助成金	生涯教育係	110	B	終了	B
④	生涯スポーツ推進事業	生涯教育係	359	A	継続/現状維持	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町民がスポーツに親しむ機会やスポーツ人口が減少している中、スポーツを行う機会の支援等を図るためには重要な施策である。
② 有効性	B	施策事業の実施については、概ね計画どおりに実施できたが、各年代が参加しやすい事業内容の取り組みが必要である。
③ 効率性	A	本施策については、スポーツ推進委員をはじめ、体育連盟と連携・協働を図り、それぞれの役割により効率的な推進が図られた。
④ 公平性	A	町民全体を対象としていることから、公平性は保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	スポーツ推進委員等の意見を聞きながら推進している。

5 総合評価【A～D】

- A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等
 B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等
 C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等
 D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等
 (2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
政策目標の達成に効果的であるが、人口減少、少子高齢化に伴い、スポーツ人口の減少が見られる。広く参加しやすい環境の整備など、スポーツ推進による町民の健康増進をすすめることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
政策目標を達成するためには、施策の継続が重要であり、各関係機関と連携を図りながら引き続きスポーツの普及推進に努めていく。また、老朽化しているスポーツ施設については、将来的な視点から長寿命化改修等を検討していく。	同 左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	39
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	3	図書サービスの充実		

1 施策の概要

基本方針	読書環境の充実にむけて、図書館・学校図書室のニーズに応じた蔵書・資料の充実に努めるとともに、ブックスタートなど、多様な読書活動を町民とともに進めます。また、誰にでも居場所のある図書館、地域の情報拠点となる図書館、町民の暮らしに役立つ、優しい図書館という3つの基本方針に基づき、新図書館の整備を進めます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）

図書館利用者の利便性の確保と図書の貸出冊数の増加を推進するため、各種サービスの向上や企画展示の開催、計画的な図書の購入などにより読書環境の充実に図っている。

新図書館の整備とあわせて、図書の増加や郷土資料の収集、人員体制等を整えることにより、図書館機能の充実が図られた。

書架や読書スペースの狭隘などの施設面、サービス向上に向けた人員体制などに課題がある。

従前の図書館サービスはもとより、これまで以上に住民が求めるサービスに対応した機能の充実が求められている。

2 基本施策指標

指標1	指標名	図書の町民1人あたり年間貸出し数						
	定義等	町民の図書貸出数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							10冊
	実績値	7.3冊	7.5冊	6.0冊				
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	読書促進事業	図書業務係	10,192	B	継続/現状維持	A
②	雄武町図書館建設事業	図書業務係	73,282	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	図書館については、地域の情報拠点、コミュニティの中心としての役割を果たす施設であり、施設等のハード面、資料等のソフト面を整備し充実させることは、町民の生涯学習を推進する上で重要な施策である。
② 有効性	B	新図書館のオープンにより、施設面及び蔵書・資料の充実が図られたほか、企画展示、工作会等のイベント、移動図書館・配本などのアウトリーチサービス等を実施して読書促進を図っているが、一部の事業については、目標を達成することが出来なかった。
③ 効率性	A	図書の整備については、蔵書構成を考慮し計画的に購入しているほか、図書によっては他市町村図書館と連携して対応するなど、効率的に図書を提供している。また、購入に際しては業者によりカバー・ラベル・バーコードを装備済の状態で購入しており、効率化を図っている。
④ 公平性	A	図書館サービスは全町民を対象としていることから、公平性は確保されている。
⑤ 町民意見の反映	A	図書館サービスについては、図書館協議会のほか町民のリクエストに応じる形で実施している。建設においては、町民ワークショップ等を行い町民の意見を反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
計画的に図書館建設を進め、資料の整備を行うことができ、町民の学習機会及び集うことができる空間を提供できていることから、引き続き現行施策の推進を図ることが必要である。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
図書の整備については、現行施策を継続し、図書の充実を図ることとし、図書館建設においては、各種工事及び備品購入等が終了し、用地確定測量業務を残すのみとなっていることから、事業完了に向け業務を継続することとする。	同 左	

* 今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止

第6期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	3	達成感	整理番号	40
基本施策	12	生涯学習・生涯スポーツの推進	評価責任者	教育振興課長 中村 文隆
単位施策	4	芸術・文化の振興		

1 施策の概要

基本方針	町民が優れた芸術・文化にふれる機会を継続的に提供していくとともに、町民の自主的な芸術・文化活動を引き続き支援していきます。また、新図書館の整備と連動しながら、歴史遺産の保存・活用や潜在的な文化資源の展示を進めます。	
現状と課題	【現状】（総合計画前期基本計画策定時）	【現状】（令和元年度末）
	芸術文化に対する興味は非常に高く、期待度の大きさが同えるが、生の文化や芸術に触れたり、鑑賞する機会が多いと言えない現状である。文化団体組織の活動は個々に取り組みしており、相互連携を図っている。	町民が芸術・文化にふれる機会を提供するため、毎年芸術鑑賞会、隔年で文化講演会を開催している。また、町民文化祭や各文化団体に対して支援している。
	【課題】（総合計画前期基本計画策定時）	【課題】（令和元年度末）
	優れた芸術文化を鑑賞する機会を継続して支援する必要があり、併せて的確な学習ニーズを把握し、情報の提供と活動の場の充実を図る必要がある。	各文化団体については、精力的に取り組んでいるが、活動成果を発表する場が少ない現状にあり、機会の提供の支援が必要である。

2 基本施策指標

指標1	指標名	町内での芸術・文化鑑賞の機会の年間延回数						
	定義等	芸術・文化鑑賞機会の年間回数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	4回	4回	3回				5回
指標2	指標名	おうむ陶芸工房年間延利用者数						
	定義等	陶芸工房の利用者数						
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値	770人	572人	487人				800人
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値（R4）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	元年度決算額(千円)	総合評価	今後の展開方向	単位施策への貢献度
①	芸術文化公演事業	生涯教育係	1,336	A	継続/現状維持	A
②	陶芸推進事業	生涯教育係	807	B	継続/現状維持	B
③	雄武町芸術文化振興事業	生涯教育係	48	B	継続/現状維持	B
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	町民の芸術・文化に対する意識や理解を深める上で、重要な施策である。
② 有効性	A	芸術・文化の鑑賞機会の開催や支援等により、情操の滋養が図られた。
③ 効率性	A	事業の実施にあたっては、事前に関係機関等との協議を行った上で、各団体と調整を図りながら事業を実施している。
④ 公平性	A	全町民を対象としていることから、公平性は保たれている。
⑤ 町民意見の反映	A	学校や社会教育委員、町民等の意見を聞きながら実施している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
町民の芸術・文化に対する興味や関心が培われ理解を深めることができ、また、各文化団体組織の自主的な活動も行われていることから、継続して推進していく必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/現状維持	継続/現状維持	
生涯学習の観点から、芸術・文化活動は重要な施策であり、より多くの年代に多様なプログラムを提供する必要があることから、引き続き推進していく。	同 左	

* 今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止